

積極的に大人と関わる子どもたちを育成し、地域で子どもたちを見守る体制につなげる。

《学校紹介》

創立143年の伝統校。少子化の影響で生徒数は減少傾向。
通学に1時間かかる児童もいる

【あいさつ運動概要】

- ◎主体: 児童会と登校の早かった6年生が手伝う
- ◎形態: 昇降口と校門前で実施
- ◎頻度: 毎日

【特長】

毎朝、児童会のメンバー約10名に、その日登校の早かった6年生4人が加わり、昇降口と校門前に分かれて運動を行っています。地域の人とも大きな声であいさつを交わし、今では「知らない人と仲良くなれるのがうれしい」という声もあがるほど、積極的に大人と会話ができる子が増えています。

地域の方々との親密度は向上し、隣接する主要道でも阿坂小の付近では往来する車の速度がゆるやかになり、車内でお辞儀を返す人もいます。さらに昨年度は、地域住民の発案で校門前の横断歩道に信号機が設置されました。「あいさつ運動」を通じて、地域で子どもたちを見守る意識が自然と根付いたのです。

運動を終えたメンバーは「お疲れさまでした!」「ありがとうございました」と声をかけあいます。他人への感謝の気持ちも育む活動になっています。



●校門前では地域の人たちにも積極的にあいさつを

【メリット・効果】

- ◎大人と積極的に対話のできる子どもを育てる
- ◎地域との交流によって、登下校中の児童の安全を向上
- ◎子どもの体調や様子を把握できる

トピックス

教師が子どもの様子を把握するための良い機会になる。

毎朝、同校の福田哲也校長は「あいさつ運動」を見守っています。「体調の悪い子に気づき、声をかけられるとても良い機会になっています」。子どもたちとのおしゃべりも増え、日頃考えていることも把握しやすくなりました。「小さな親切」運動のカラフルな色の幟とたすきも、児童たちのやる気を引き出しているとか。「もっとみんなを元気にしたい」。そんな児童たちの声も聞けるようになりました。



あいさつで子どもを見守る福田校長